

徳島県山地防災ヘルパー講習会でドローンを活用した災害対策を説明しました

平成 30 年 10 月 11 日
徳島森林管理署

徳島森林管理署では、10月10日、徳島県山地防災ヘルパー連絡協議会主催の講習会において、民有林が被災した際にドローンを活用した新たな民有林支援について説明しました。

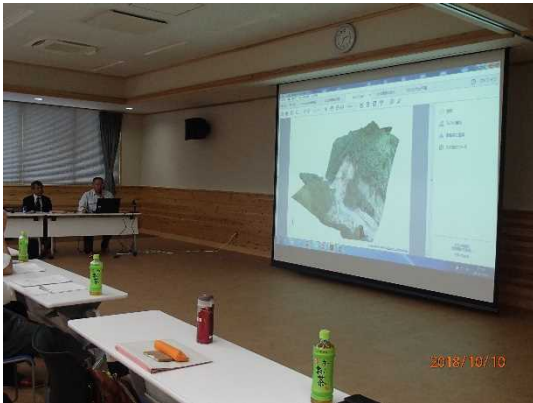
徳島県山地防災ヘルパーは、平成9年に創設され今年で21年目になり、現在県内で174名の山地防災ヘルパーが、民有林が被災した際の災害情報収集、防災意識の普及・啓発など、地域における山地防災活動の核として活動しており、今回の講習会には42名の山地防災ヘルパーが参加しました。



説明会の様子

講習会では、徳島森林管理署長が平成30年7月豪雨災で被災した民有林4箇所で、徳島森林管理署が所有するドローンを飛行させ、得られた空撮データから作成したオルソ画像データなど、災害復旧活動、災害申請に必要なデータを迅速に提供した支援内容について説明した後、当署次長から、実際に撮影した空撮映像、空撮データを基に作成したオルソ画像や、画面上での復旧計画作成などについて、詳細に説明しました。

※オルソ画像とは、GIS（地理空間情報）と重ね合わせるために空中写真のひずみを修整した画像のことです）



徳島森林管理署次長による講義の様子

参加者からは、「このような支援を更に継続・拡大していただきたい。」「徳島森林管理署から提供されたデータと、その後の実際の測量成果の誤差は非常に小さい。今後の活用が期待される。」などの意見がありました。



参加者からの質問の様子

徳島森林管理署では、引き続き、このような新たな民有林支援にも積極的に取り組んでいきます。